

ウイルス学講座

Virology

教授	白木 公康	Kimiyasu Shiraki
准教授	大黒 徹	Tohru Daikoku
助教	武本 眞清	Masaya Takemoto
助教	矢島美彩子	Misako Yajima
技術職員	吉田与志博	Yoshihiro Yoshida

◆ 原 著

- 1) Daikoku T, Horiba K, Kawana T, Hirano M, Shiraki K. Novel deletion in glycoprotein G forms a cluster and causes epidemiologic spread of herpes simplex virus type 2 infection. *J Med Virol*. 2013 Oct;85(10):1818-28.
- 2) Daikoku T, Saito K, Aihara T, Ikeda M, Takahashi Y, Hosoi H, Nishida T, Takemoto M, Shiraki K. Rapid detection of human cytomegalovirus UL97 and UL54 mutations for antiviral resistance in clinical specimens. *Microbiol Immunol*. 2013 May; 57(5):396-9.
- 3) Chono K, Katsumata K, Suzuki H, Shiraki K. Synergistic activity of amenamevir (ASP2151) with nucleoside analogs against herpes simplex virus types 1 and 2 and varicella-zoster virus. *Antiviral Research*. 2013 Feb;97(2):154-60.
- 4) Furuta Y, Gowen BB, Takahashi K, Shiraki K, Smee DF, Barnard DL. Favipiravir (T-705), a novel viral RNA polymerase inhibitor. *Antiviral Research*. 2013 Nov;100(2):446-54.

◆ 総 説

- 1) 白木公康. 漢方薬を利用した抗ウイルス薬開発の展望. *ファルマシア*. 2013 ; 49(11) : 1101-5.
- 2) 白木公康. インフルエンザに対する漢方. *小児内科*. 2013 ; 45(11) : 2029-33.
- 3) 外山 望, 白木公康. 宮崎県の帯状疱疹の疫学 (宮崎スタディ). *病原微生物検出情報*. 2013 ; 34(10) : 298-300.

◆ 学会報告

- 1) Shiraki K. Identification of ribonucleotide reductase mutation causing temperature-sensitivity of herpes simplex virus isolates from recurrent whitlow by genome wide sequence. 38th Annual International Herpesvirus Workshop; 2013 Jul 20-24; Grand Rapids, Michigan.
- 2) Daikoku T, Oyama Y, Sekizuka T, Kuroda M, Sata T, Shiraki K. Identification of ribonucleotide reductase mutation causing temperature-sensitivity of herpes simplex virus isolates from recurrent whitlow by genome wide sequence. 38th Annual International Herpesvirus workshop; 2013 July 20-24; Grand Rapids, Michigan.
- 3) 白木公康. 免疫抑制剤の抗ウイルス作用. 第 46 回日本臨床腎移植学会 ; 2013 Jan 31-Feb 1 ; 浦安. (招待講演)
- 4) 白木公康. 帯状疱疹疫学と帯状疱疹の 2 回発症. 第 87 回日本感染症学会学術講演会・第 61 回日本化学療法学会総会合同学会 ; 2013 Jun 5-6 ; 横浜.
- 5) 白木公康, 田中知暁, 野村伸彦. 細菌性トリプシン様プロテアーゼによるインフルエンザウイルスの活性化と T-705 及びオセルタミビル作用. 第 87 回日本感染症学会学術講演会・第 61 回日本化学療法学会総会合同学会 ; 2013 Jun 5-6 ; 横浜.
- 6) 田中知暁, 野村伸彦, 白木公康. インフルエンザウイルス感染によって誘導されるサイトカイン産生に及ぼす T-705 の作用. 第 87 回日本感染症学会学術講演会・第 61 回日本化学療法学会総会合同学会 ; 2013 Jun 5-6 ; 横浜.
- 7) 白木公康, 大黒 徹. 細菌性トリプシン様プロテアーゼとノイラミニダーゼによるインフルエンザウイルスの活性化と T-705 及びオセルタミビル作用. 第 54 回日本臨床ウイルス学会 ; 2013 Jun 8-9 ; 倉敷.
- 8) 白木公康. 単純ヘルペス・帯状疱疹治療の新しい可能性. 第 77 回日本皮膚科学会東部支部学術大会 ; 2013 Sep 21-22 ; さいたま. (招待講演)
- 9) 大黒 徹, 雄山由香利, 矢島美彩子, 関塚剛史, 黒田 誠, 佐多徹太郎, 武本眞清, 白木公康. 単純ヘルペスウイルス臨床分離株の次世代シーケンサーによる変異部位の網羅的解析. 第 61 回日本ウイルス学会学術集会 ; 2013 Nov 10-12 ; 神戸.
- 10) 武本眞清, 大黒 徹, 白木公康. 水痘帯状疱疹ウイルスの抗 gH 中和抗体による潜伏感染誘導時の転写制御. 第 61

回日本ウイルス学会学術集会；2013 Nov 10-12；神戸。

- 11) 白木公康. ヘルペスウイルス感染症. 日本性感染症学会第 26 回学術大会；2013 Nov 16-17；岐阜.
- 12) 丹内秀典, 尾上泰彦, 尾上智彦, 松尾光馬, 本田まり子, 白木公康. 性器ヘルペス患者から分離された単純ヘルペスウイルス 2 型における TK の変異および薬剤耐性. 日本性感染症学会第 26 回学術大会；2013 Nov 16-17；岐阜.
- 13) 雄山由香利, 白木公康. 単純ヘルペスウイルス臨床分離株の次世代シーケンサーによる変異部位の網羅的解析. 日本性感染症学会第 26 回学術大会；2013 Nov 16-17；岐阜.
- 14) 白木公康, 外山 望, 宮崎県皮膚科医会. 1369 例の帯状疱疹の臨床診断と PCR 法による診断について. 第 136 回日本皮膚科学会宮崎地方会；2013 Dec 1；宮崎.

◆ その他

- 1) 白木公康. 帯状疱疹の痛みに関する新知見. 第 12 回島根ヘルペス研究会；2013 Apr 25；出雲.
- 2) 白木公康. ウイルスの最近の話題. 千葉県皮膚科医会学術講演会；2013 May 30；千葉.
- 3) 白木公康, 武本眞清, 大黒 徹. 水痘帯状疱疹ウイルスの潜伏感染化過程における IE62, IE63 の性状変化解析. 平成 25 年度北陸腸内細菌研究会総会・研究発表会；2013 Jul 13；福井.
- 4) 白木公康. ヘルペス感染症の病態と抗ヘルペス薬. 南多摩スキンケア研究会；2013 Nov 30；八王子.
- 5) 白木公康. 移植時の注意すべきウイルス感染について. 第 18 回静岡県腎移植研究会；2013 Dec 14；静岡.
- 6) 白木公康, 武本眞清, 大黒 徹. 平成 24 年度乳酸菌研究会に関する報告書. 東京：全国乳酸菌研究会；2013. 水痘帯状疱疹ウイルスの *in vitro* 潜伏感染誘導時における細胞内環境の変化；p. 119-21.